

学校名	坂戸市立入西小学校
実施日	令和8年2月13日

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	本校は、目指す学校像の実現に向け、組織的・計画的に取り組んでいる。	A	○校長の学校経営方針をもとに、「学び合い 関わり合い 高め合い」の「あい」がふれる学校」の実現に向けて、教職員が一丸となって取り組み、大きな成果を得た。 ○学校運営協議会を定期的に開催し、よりよい教育活動について検討し、特色ある学校づくりを行うことができた。 ○全職員が各自の役割を自覚し、校長が具体的に示す方向性に向かって組織的に教育活動を行うことができた。 保護者評価「学校教育への満足度」AB評価94% 教職員評価「特色ある学校づくり」項目AB評価100%	A	・教員一人一人が、学校での情報策を共有し、学校運営にあたっている。 ・校長の方針のもと、教職員が一丸となっているのを感じる。 ・校長の学校経営方針はよいと思う。人々が関わり合うことで生活があることを子供たちが学ぶことこそ学校の本懐かと考える。先生方が方針をよく理解し、努力していると感じる。 ・授業をみて感じることは「学び合い」が定着していること。児童が互いに学び合う光景はいつもとても微笑ましい。 ・温かみを感じるよい学校だと感じる。
	2	本校は、災害や事故等に対する組織的な体制を整えている。	A	○今年度は年間計画に「引き渡し訓練」と「不審者対応訓練」を位置付け、計画通りに実施した。 ○校内における児童の安全確保の観点から、定期的に進入禁止ロープや植木の剪定を行った。 ○教職員による毎月の安全点検の結果を受け、破損箇所については速やかに修繕を行った。修繕箇所ほぼ「0」。 ○資料室や特別教室の棚など、教科主任が中心となり整理整頓を徹底した。 保護者評価「学校の安全面の配慮」AB評価95% 教職員評価「災害や事故等に対する組織体制」項目AB評価98%	A	・子供たちの安全指導に当たっては、教員、地域が一体となり、安全確保に務めている。 ・児童が安全な学校生活を送るために整理整頓がよくなってきている。これは今年度だけでなく、こ数年良い状態が続いている。 ・常に校内が整備されている。植木の剪定もされ、見通しよく安心安全な学校の環境が保たれている。 ・引き渡し訓練も、不審者対応訓練も数年ぶりに実施された。もしもの時を考えると、こういった訓練を増やしていただくと安心である。
	3	本校は、働き方の改善を推進している。	A	○保護者・児童にとってよりよい教育活動となるよう、教育課程の見直しを行い、会議の精選や教材研究の時間、児童に関わる時間を確保することができた。 ○今年度は月に一回「退任day」の設定や施設整備のセツト開始時刻を一時間早め、働き方改革を行った。 ○働き方改革により、職員の退任時間が昨年度より早くなった。 教職員評価「働き方改革の意識」項目AB評価93%	A	・今後も教職員の働き方改革を推進してほしい。 ・退任時間が早くなったのは良いことである。質を下げることなく無駄を無くして月一回の退任Dayが月2回に増えたらよい。体調の相模も遠慮なくできる状況も良いと感じる。 ・先生方の労働環境は改善されていると思う。さらに保護者や地域の方々が協力して学校を支えるような仕組みができればよいと思う。
教育課程・学習	4	本校は、主体的・対話的で深い学びのある授業づくりに取り組んでいる。(市重点項目)	A	○9月に授業公開期間を実施したことで、教職員にとって挑戦の機会となり、授業力の向上につながった。 ○校内研修等でも授業づくりの方向性を全職員に示したことで、教材研究の質を高めることができた。 ○11月の授業研究会に向けて、教材研究や指導案の勉強会を教師が自主的に行うなど、自覚性を高めることができた。 保護者評価「わかる・できる授業」AB評価92% 教職員評価「主体的・対話的で・深い学び」項目AB評価100%	A	・研修の更なる発展を期待する。 ・教師がまず指導し、やって見せてから児童に自分の言葉で話すといった工夫が見られ、とても良いと思う。 ・こ数年でデジタル機器が授業でうまく活用できるようになっていると思う。また、黒板も使用して丁寧に授業ができていると感じる。今後、AIなどのように活用していきたい期待している。
	5	本校は、豊かな心を育む教育の充実を図っている。	A	○年間計画に基づき、道徳の授業を全クラスで実施した。 ○学校生活のあらゆる場面で、豊かな心を育むことができるよう、全教職員で情報共有し児童を指導することができた。 ○いじめ対応については、管理職、学年、生徒指導主任と連携し、組織的に対応することができた。 保護者評価「豊かな心の育成」AB評価93% 教職員評価「豊かな心を育む授業」項目AB評価98%	A	・今後も児童の豊かな心を育む教育の充実を図りたい。 ・学年を超えたつながりを持つ機会を設けているよう豊かな心の育成には大切である。 ・土器づくりだったり東洋ライスカサマ工場の見学だったり、勉強以外の行事も新たに導入したりと、とてもありがたい。
資質の向上	6	本校は、体罰や交通事故等の不祥事を根絶するための効果的な取組を実施している。(市重点項目)	A	○倫理確立委員会を定期に実施したことにより、教職員の倫理観が高まり、教職員事故防止が図られた。 ○教職員間の相談体制がよく、困り感の解消につながった。これにより、不適切な指導が生まれにくい職場環境が構築されている。 ○職員の関係性がこれまで以上に温かくなり、同僚性が高まった。 倫理確立委員会 15回 教職員評価「教職員事故」項目AB評価100%	A	・具体的な事例をもとに職員間で児童の安全な事故防止対策が見受けられた。
	7	本校は、不登校の未然防止や課題解決のための取組を実施している。(市重点項目)	A	○教育相談主任を中心に児童理解や支援方法の検討など、組織的に行うことができた。 ○管理職を通じ、必要に応じて外部の関係機関と連携することができた。 ○校内スペシャルサポートルームの設置により、学校へ登校する児童が増え、学びを止めない環境を整えることができた。 保護者評価「家庭への連絡を適切に行っている」AB評価94% 保護者評価「一人一人の児童を大切にしている」項目AB評価91% 教職員評価「不登校等の未然防止や課題解決」項目AB評価100%	A	・不登校対策の未然防止に最大限の注意を図ってほしい。 ・取組が確実に実施されているようで安心できる。 ・無理のない範囲で登校を促すスペシャルサポートルームがあり、学びを止めない支援体制を構築されていていい。 ・スペシャルサポートルームは、児童の成長を支える支援だと感じる。
学習環境	8	本校は、特別支援教育の充実を図っている。(市重点項目)	A	○保護者面談等に特別支援コーディネーターが同席する機会を多く設定し、就学相談や医療との連携につなげることができた。 ○県立毛呂山特別支援学校から講師を招聘し、特別な支援を要する児童への対応方法等、研修を深めることができた。 ○教育相談主任が発行する「教育相談だより(教職員向け)」を通じて、児童理解が深まった。 ○特別支援コーディネーターが教育相談研修を計画的に実施し、教職員の児童理解が深まった。 教職員評価「特別支援教育の充実」項目AB評価100%	A	・県立特別支援学校との連携を密にし、児童の成長をお願いしたい。 ・保護者面談時に特別支援コーディネーターが同席し、保護者の困り感等に寄り添った対応ができている。 ・いつも掲示物が工夫されている。外の畑や花壇もきれいにされており、よい環境で教育がなされている。 ・サポート体制がしっかりしている。
家庭・地域との連携	9	本校は、積極的に関係機関・地域等と連携・協働している。	A	○担任から家庭連絡する際、児童の頑張りや前向きに取り組んでいる様子を積極的に伝えることができた。 ○すべての学年において、各教科や総合的な学習の時間などで昨年度以上に体験活動を取り入れ、地域や保護者との連携も図ることができた。 ○野球教室や土器づくり、サッカー教室については保護者へ公開した。 ○学校応援団と協力し、読書の啓発や環境の整備、学習の充実が図られた。 保護者評価「保護者・地域に開かれている」項目AB評価95% 教職員評価「家庭・地域等との連携」項目AB評価100%	A	・常日頃から地域・学校が一体となり、地域に根差した学校運営が図られるようお願いしたい。 ・地域の消防団と連携した放水訓練などの取り組みは大変よい。地域のボランティア組織がどれくらいあって何をしているのかを知することは社会の成り立ちを知る導入として適している。 ・田植え作業の際、老荘会と連携していいと感じる。 ・学校応援団からすると、もっと気軽に参加できる機会が増えると学校へ協力したいと思う保護者や地域の方も増えるのではないかとと思う。 ・先生方も忙し中、授業参観の機会をたくさんつないでいただいている。
小中連携	10	本校は、小中連携を推進している。	B	○本年度、新たに若宮中学校区での管理職による連絡会議を2回実施した。また、日常の情報交換も頻繁に行なった。 ○情報交換は行っているが、共通した取組については少なかった。 ○連絡会議以外にも中学校教員が小学校に來校してもらう機会を設定し、連携を深めた。 ○授業見学や部活見学以外にも、学校の決まりなどについて話し合う場を設定できるとよい。 教職員評価「小中連携の推進」項目AB評価84%	B	・若宮中学校との情報交換は日頃より行っていると思うが、今後より一層の情報交換を望む。 ・小中連携会議は今後も継続していくことが重要である。現在も必要な時に連携が図られていて感じる。 ・中学入學は子供にとっても保護者にとっても大きな変化であり不安が伴う。特に部活動の取り組みもこ数年で大きく変わったと聞くと、事前に児童だけでなく保護者にも情報が伝わる環境にしてほしい。 ・中学校入學の際、中学校小学校区との連携を検討しただけでよい。 ・中学校との情報共有をしっかりと行っていると感じる。